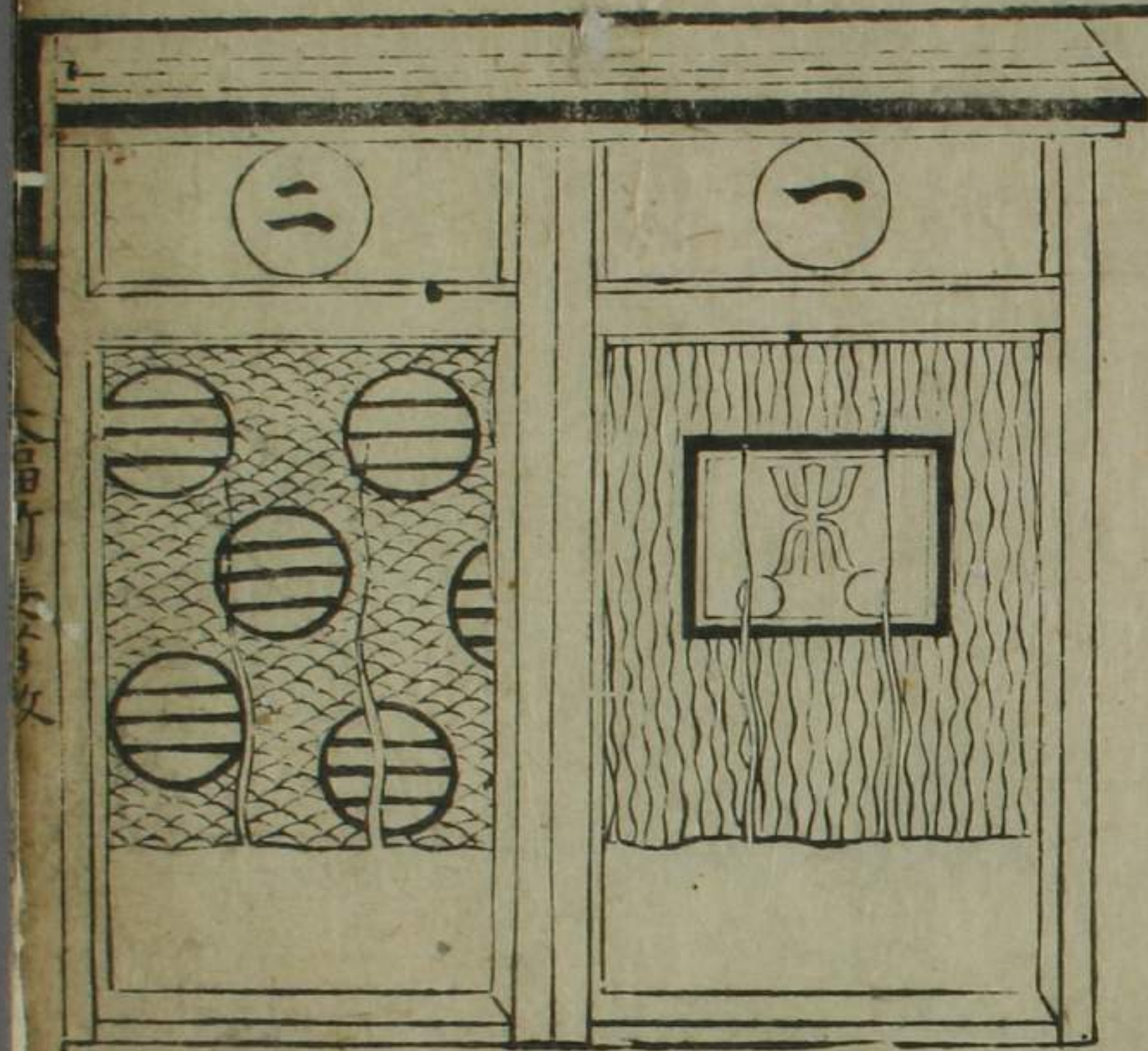


特
3264
2

日本の永代花

目録

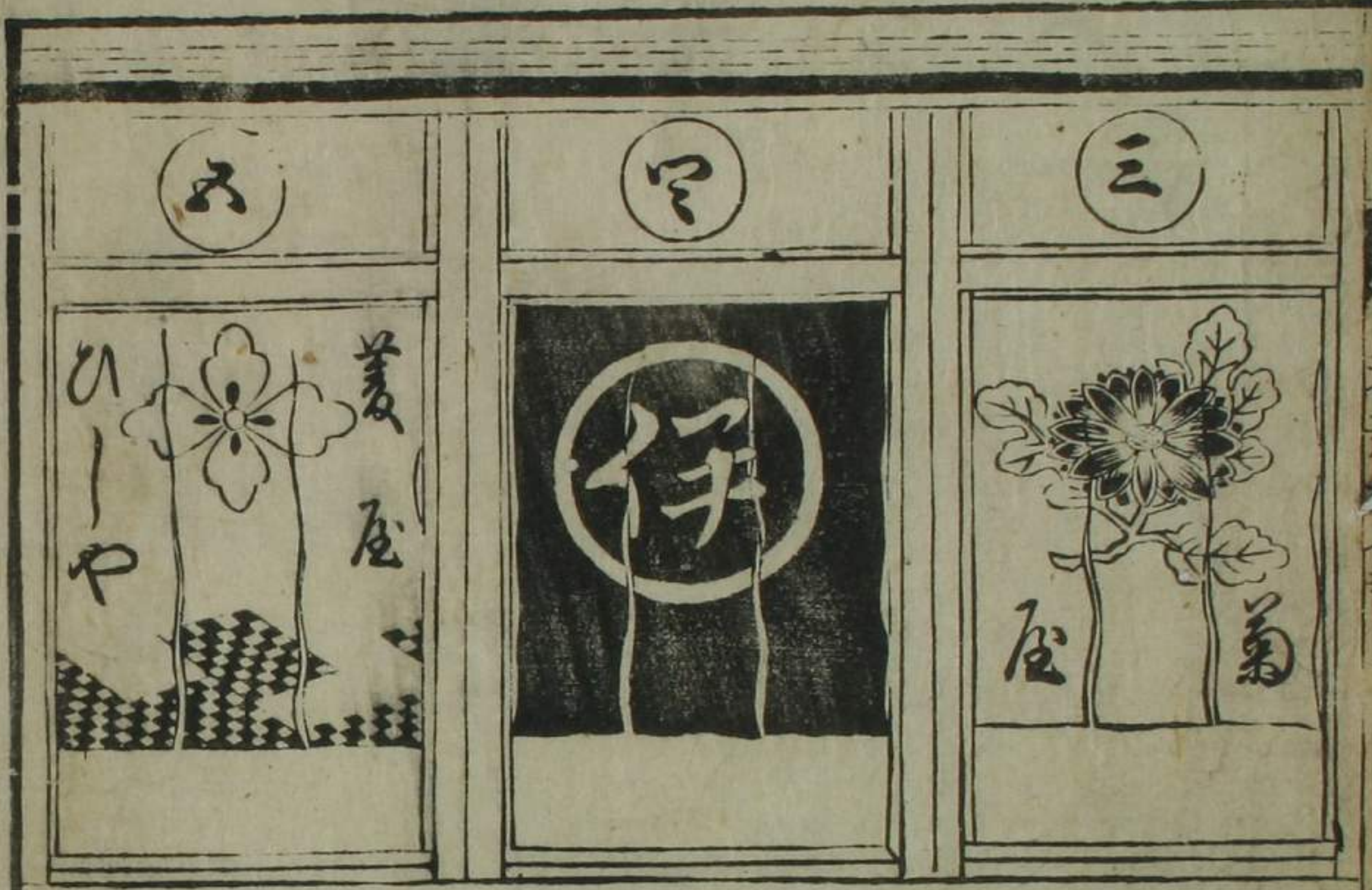


卷三



燕つばき さく さく
 江戸えど の り の り の り
 小松こまつ の り の り の り
 小松屋

園うゑん の り の り の り
 小松屋 の り の り の り
 小松屋 の り の り の り
 小松屋



世に抜ぬれ親喜多ん
 伏見にかられた後生屋の
 質程の菊屋の毛さうり

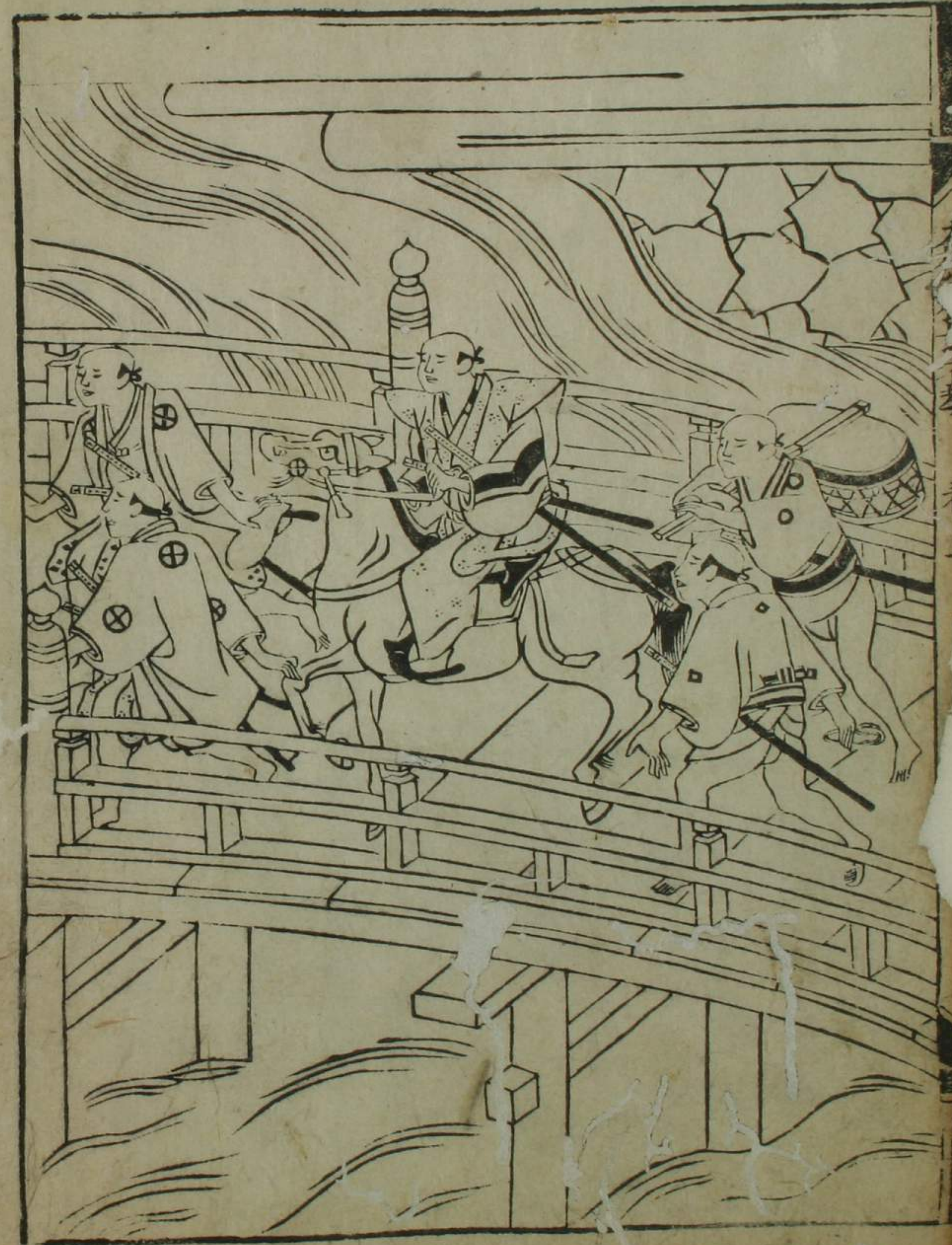
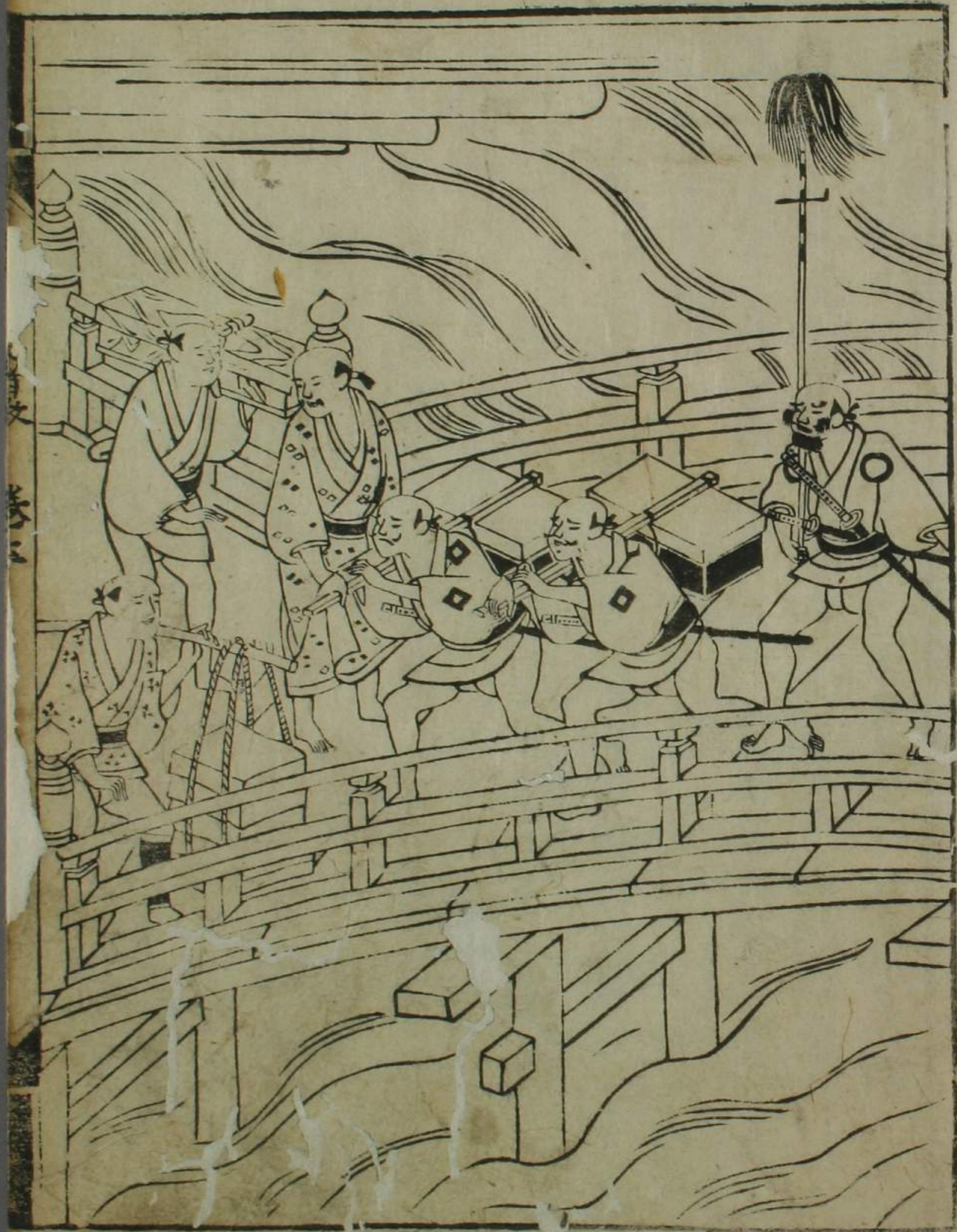
多野山借儀場の施主
 大坂ふかたれた村を
 三世おしりあうりく

紙子御神乃破道町
 後河にかたれた村を
 毛りれ縁とゆひ突そ

煎しやうたごのかわり同業
 三百疋の世に各賢ありく強気成えり流るるかか
 らどかり人の智あるはえ小色しう美病のくるし
 となとせり藤治乃ありやくかゝるはかりくおは
 くれが今とそれとふくと書生さうりといふ十乃陰
 うりく書さうりしるゆよわかんをたれたいまごま
 いおありの草足は袋よ書踏とたは帯りくうの分治小
 色かり結りん長志丸こいつら妙業乃方組借へり
 △朝起六友△家職式十友△和借八友△後未指友△連志
 七友△六千友△細りて御美用秤目乃毒ひおたや
 多合志と入はと物々音ひりくは志おたや
 多のり然まは是お大り毒新あり○美合志礼箱物
 と不流志○内志と志酒金盤始小琴奇かえる友○男

子小乃乃打難。鞠揚りるる云連能。産ぬ普請業の場
 投奇。○花の舟松比目魚入。○秋の竹枝其葉六。
 町人の居合兵法。○物参詣後生心。○流るる投法判。○新
 田乃所依子金山乃中入。○含酒苦若好んあひ乃系
 のり。○幼をお懐乃知なき加格の行入。○家業の外乃小
 細之金の枝目費。○飯志よん志れ揚屋よを付。○八乃高
 備振先は通りと班猫法。○おるより怖お口よのふと想
 心おあやととあられこり。○早小小流多つは是皆金云と
 慌びは福志乃教よ任を待着油。○ひくおの流に戸あれ
 何と志れいごとく高れあまわり。○流あん志りかか
 日本橋乃有借小曜より一日。○色つらく多るに流る流るの
 人の集り。○山と更よ。○くくく。○糸の祇屋を云人返乃
 天儀祭小わりのと。○毎日れ舞忘昌い。○市町居が代乃乃度く

通り町十二乃れ大乃下世にわくは橋上。○にる素一人出
 家志人。○流を助。○流と流るる。○あく。○された人の大
 り小のくる。○抱おと。○に流とをみ。○あく。○目。○角。○志
 色。○接ひ。○と。○志と。○小。○佩。○よ。○は。○は。○抱。○お。○あ。○と。○志
 角。○高。○賣。○小。○一。○持。○お。○ん。○ん。○と。○の。○側。○さ。○あ。○ぐ。○と。○振。○く。○か。○ら
 り。○今。○乃。○世。○れ。○中。○小。○流。○子。○れ。○師。○近。○り。○五。○揚。○袋。○こ。○り。○外。○小。○流
 小。○流。○抱。○の。○一。○種。○前。○む。○して。○小。○判。○と。○を。○あ。○は。○と。○つ。○つ。○例。○の。○
 何とぞ。○只。○流。○り。○と。○と。○氣。○と。○付。○心。○と。○碎。○中。○に。○危。○危。○く。○小。○乃。○
 取。○依。○り。○は。○家。○大。○之。○在。○指。○簪。○お。○の。○が。○ひ。○と。○つ。○道。○小。○式。○百。○三。○百。○人。○登。○
 わ。○り。○あ。○る。○多。○中。○一。○逆。○笑。○少。○して。○天。○定。○つ。○れ。○お。○り。○く。○夜。○重。○志。○志
 汚。○志。○為。○神。○口。○乃。○さ。○れ。○は。○流。○流。○獄。○乃。○う。○小。○第。○志。○志。○と。○間。○掉。○杖。○の。○実
 色。○も。○大。○く。○は。○流。○志。○願。○乃。○屋。○一。○後。○付。○を。○職。○人。○の。○看。○板。○の。○
 小。○志。○れ。○け。○る。○流。○り。○番。○近。○童。○小。○流。○本。○屑。○と。○の。○色。○も。○る。○に。○可。○惜

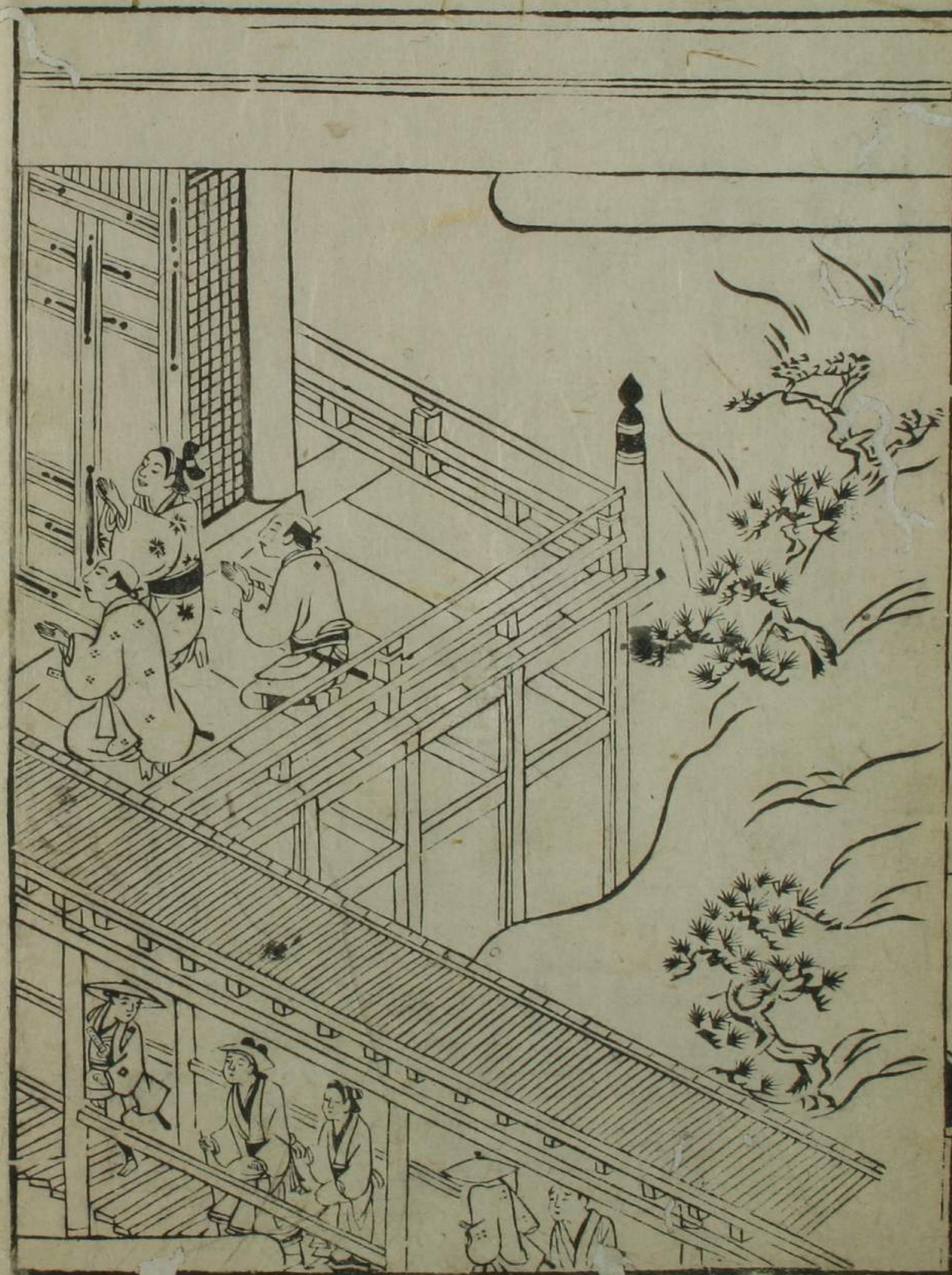


國は移して同品登乃大臣

國中乃醫師見板院小末初乃あ今ど生たの海珍貝
よそ入るるに是入咽と通りよひ川道とて是と振り
く西方極樂へ只一乃にどへとあどいあううと
治あお親に格と進められ父中暇小見ひしと我初
年六十三定命さう引か小浮世れ世面ううと消
く圖魔の香に付かゆり小胸算用と極め多し何とく
い神とゆりあ海もは格乃格とされむと云わうりも
乃ゆりか後生つとされしと各と説記とゆりなとて
死ぐ行と入ぬと推みひと川と後あみと甲十九日の長
乃つらひ地獄のまにまにあふとぬまうとと終る行乃と
やりたるも板親の家督とぬとじり小かじりは後
府内小住とあなを二孫とて各も一方も格とあり三年

の程い形瑞れ破格とてまの世と格小あくと今日と
い蒸熱あ格とて独りの母の世とあせば何の色形
叶は合あり親にまよとてつひ乃格とたゆとP
あが榮格の油れとあり格と格とてと一あふ入
りしとてい実とてとてとてとてとてとてとてと
と時言とてまゆとてとてとてとてとてとてとて
古代より時とてとてとてとてとてとてとてとて
るも國古の費とてい付竊と榮格ととてとてとて
小も時節小れ笑とてとてとてとてとてとてとて
よP格とて十年とてとてとてとてとてとてとて
うんまとてとてとてとてとてとてとてとてとて
くくあぬ金銀湯りとれちと方とてとてとてとて
代あさるも國小あびとれとてとてとてとてとて





大和國... 卷三

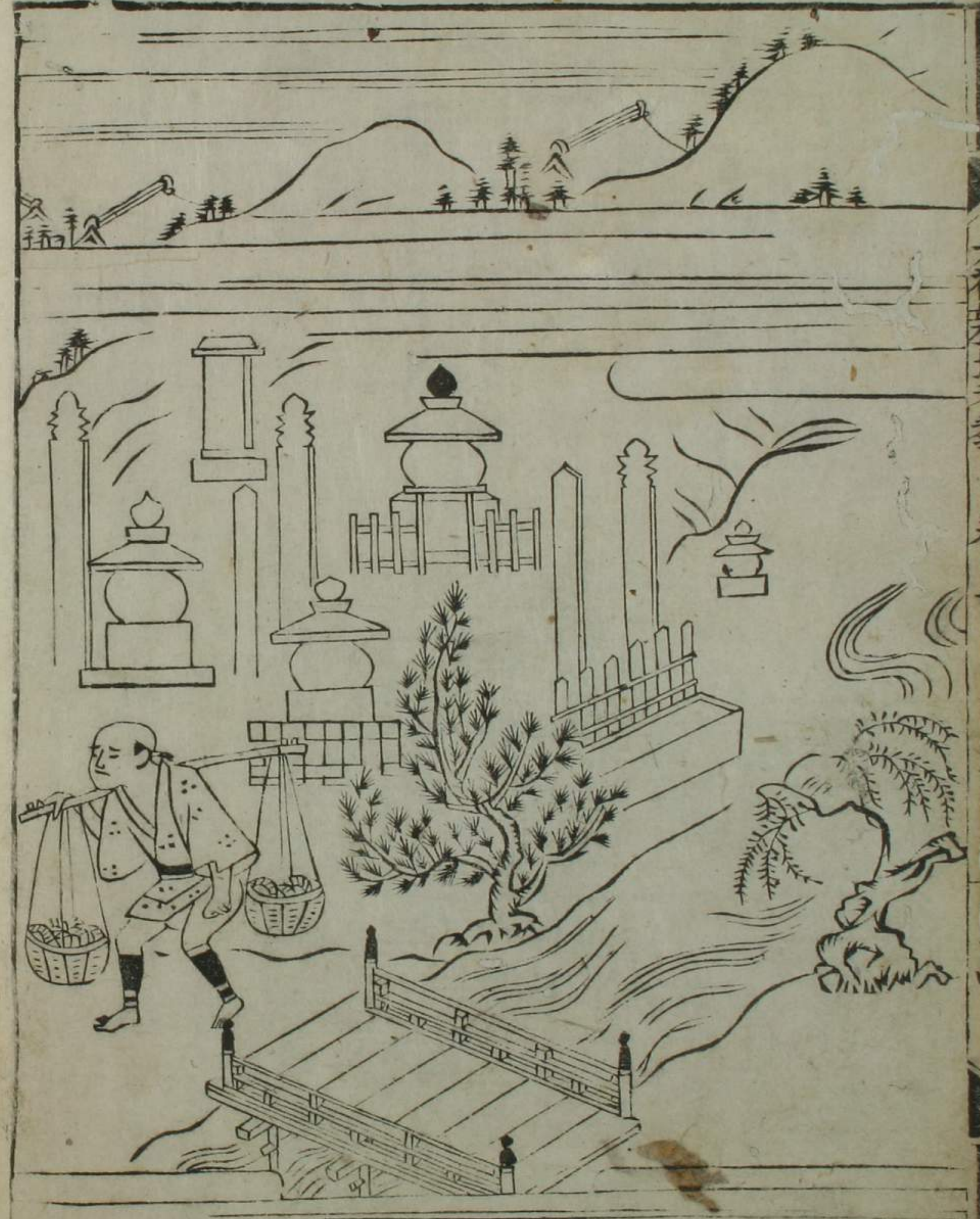
清光地乃... 是もかたむ乃... 乃金指... 色とらぬ男... 糸橋小出... わまひ色幸いも人の酔

高野山借鏡塚の旅

物よ... あら... 何乃... 是も... 是も... 是も... 是も... 是も... 是も... 是も... 是も... 是も...

徳の世ある人なりと云ふは其のまらりて九折の二月に
乃用少色立乃既誰れを辨ひのこりたるある事との
字に徳の程今の世にすまふとありたること大其ひし
いふの如く人いふ事と云ふは底しそありしと云ふ事
居れれば居れればよお果しりしことのみと云ふは
鬼如く人ありしと云ふは世にお金程と探るれば
い徳金程の年程のよりありは昨よ探りしと云ふ
播徳遇乃縁ふひれと云ふはく人果し生れ更どれ
りい金ありしと云ふはく人果し生れ更どれ
いしひありしと云ふは金程のありしと云ふはく
よろもやうに播りしと云ふはく人果し生れ更どれ
先播つればと云ふはく人果し生れ更どれ
い先小仕合ふ徳と云ふはく人果し生れ更どれ

小画ある人乃富をけりしと云ふはく人果し生れ更どれ
少とありしと云ふはく人果し生れ更どれ
りしと云ふはく人果し生れ更どれ
みろ徳人も不便と云ふはく人果し生れ更どれ
居宅と奇麗に作り朝夕酒宴美合と云ふはく人果し生れ更どれ
物と播りしと云ふはく人果し生れ更どれ
徳の如くありしと云ふはく人果し生れ更どれ
い徳の如くありしと云ふはく人果し生れ更どれ
例のつりおみ七年と云ふはく人果し生れ更どれ
多く分取よと云ふはく人果し生れ更どれ
くい徳の如くありしと云ふはく人果し生れ更どれ
て徳の如くありしと云ふはく人果し生れ更どれ



お忠と権小左とく換小左の所をうそそん町成
扱ひよのりも年分小左と忠と立んとののりく是と
迷惑るく外守の疾もを渡し候と立れた二月乃
節旬成心やとく概れ酒と候りなり時十を費目の分
取小左の持式費八百目課也方八十六人毎日勤定出
合中間の小指末と所人あくを日記よ温純美切酒
者さ候く乃菓子と名も事年あまり際と費一五
梅のふああして梅れぬ所のまへより守りあう
出してはくくひ町内へ礼つとまり所とありかり
とびり大津とそ子費目備積おひされにせに存に
こりて小左と年系大返小三子費目式十五百費目乃
分取の進を回乃らひとたおのたひゆらういあり
ひのた大添おれがしと備人とあれかりとも程との高人也

と福小と百費目と六のりはぬ物とありびり難波の
小橋小作屋とつらふあ志自給と例と百五乃首取
さけと後ちして成宝海一と六分半わりの流るる三
い河とくと仕合流中よ流と人一と踏踏流くもこり
返く生國作屋乃大橋よ行く親和と程と目取よ世
とせられた一ひえれとくふとあひとくあなよりちが
まあけてらとひ大返よのかりわ門くさう所分たの流
り報ととく流しぬとれより十七年とたぬまの
國をうてとれぬ人りわりひか乃流の志神とへ市物尾
よわけ又六七人也死とせく子孫乃おれた人乃流の志
山よ石塔と切く備積海とる付と徳ととくひけ家
の所人おれとありねた事なり

紙子才袋の破道時

高貴のひそめおの異服を志ゆとくびり一後河
中町は新あぐー中あを花菱乃大紋よ家名と
せ領國のおらるるく東國お玉よあまころも代出見世と
かさくせはあまのすし目乃福の大茶の富士の旗の紙と
あ福よ湖水と湛へ米挽給田れりもらとあ白雲むこ
一好の之を推れとく朝の徳昌タよはとくかくも
又ありし門のせれ習ひも時節さのひあぐと年一主の
ふりけ悪あり取ありけ人親代よもりのろりも袋ありあ
安納川紙子の編つとは世一又いほくろお紋と付い
西れ居福とあり徳國の賣ひあめとくめいそ人あれに
今年よよ黄同といわれる所もよの村後まればあり
てあゆまるとし門く三十年あまり動定ありのまは

を分列十歳整乃む少とぬけと善乃柳乃風にも
礼まて日あり乃水のごくびり一ろあおぬり湯と
音つに新のあかやうふおとろくそせれあ一と
くあ一あ一とく金指のうくらぬとてあろく
もあ一あゆ成実とあしあて今とあ門く合島のは
ろあろ一もはあく漢島れあのおあ町いけいにかり
乃世れかりなと海の色とくく人乃情とあ無島れ時
一と親親あふ乃をさるれいす一とあ他人のあぬ息と
か一もはせまてまもとくもあも代はああやのつと
音は不通小見様あれとく結正月乃鏡餅とあこのか
くそのがあ一と月見紙おくり世といのろく一と脚毛と
情あしてああわのまらああらる年とんくどれく
あゆとく一とああこととくひやうあんとてかああゆ



あつひは美入花籠とつらつと十三よりの娘小府中乃
 ぬりぬへ美よ出しそ目とありまひ小とつらつらぬれ
 娘親よなぬらゆ中よかかれか一籠色を籠らうく
 氣込為とらん程美女ありあ耐江戸乃福人伴勢系
 文乃下向よ是とんその親りと得の貫ひ種りら子
 乃娘小なりそ後名両史ぬ一家ゆくと東武魚引こ
 子にわ所時とぬく一生樂こととつらぬ美目い果那のひ
 どのと是とつらつらと後か女子とたゆよ生育れ
 大女倍川乃花女ハとすはるに好女かんこのゆり
 危南美於ハふいれ小極進り是とおふよ度去麻后
 十の娘れ雲照女ハ美女あるへ一美於かつらよや籠ハ
 美せとくハおり

